



埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第59号

平成25年11月



巻 頭 言

副会長 伊 藤 彰 紀



同窓会員の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会活動にご協力ならびにご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年の夏の暑さは本当に厳しいものでした。35度以上の猛暑日が続き、まさに異常気象としか言いようのない状況でしたが、一方で仕事が終わってからのビールが格別に感じたのは私だけではなかったのではないのでしょうか。ところで、やっと秋の気配が感じられた頃には突如台風18号が襲来し、テレビで実況された京都嵐山の渡月橋周辺の水害映像には目が釘付けとなりました。更に死者が多数出た台風26号による伊豆大島の土砂災害など、天災の恐ろしさを改めて痛感致しました。

最近の明るい話題は、何といっても2020年の東京オリンピック・パラリンピック決定の朗報でしょうか。原発事故問題に最大限の力を注がなければならない状況下で、オリンピック招致とは何事かという意見も良く理解できますが、オリンピック開催という日本にとって久々の夢のある国家事業に向かって、国民が丸一となって努力するという姿も、素晴らしいことではないのでしょうか。勿論、経済効果も期待されるわけですが、恩恵を受けるのがスポンサーである大企業のみということにならぬよう祈るばかりです。

ところで、会員の皆様の中にはご存知の方もいらっしゃると思いますが、全国私立医科大学同窓会連絡会という組織があります。それは、関東甲信越以東の私立医大の同窓会から成る「東部会」と、同様に東海近畿北陸以西の「西部会」の2つに分かれており、それぞれ東部会には18校、西部会は11校の私立医大同窓会が加盟しています。現在は、東部会および西部会それぞれの連絡会が年に1度行われており、さらに全体をまとめた全国連絡会（全国会）も年に1度開催されています。その年の当番校は持ち回りとなっていますが、今年の東部会において平成26年度に予定されている第25回全国会の当番校として埼玉医大が推挙されました。渡辺雄幸同窓会長を中心として、早速準備活動を進めておりますが、会期は平成26年11月22日（土）、会場は帝国ホテルを予定しています。私立医科大学の同窓会の役員が一堂に会して、共通の問題点についての話し合いを行う貴重な機会となります。今回取り上げようと考えているテーマは、「同

窓生にとって同窓会とは？」という根本的な問題を掘り下げるべく、現在行っている同窓会活動の貢献度をもう一度見直して見ようと思います。会員の皆様には、追って本会のご報告をさせていただきます。

最近の話題として、本学の別所正美学長（医学部長兼任）が会長を務められている全国医学部長病院長会議が平成25年9月19日の記者会見において、「医学生の実力低下問題に関するアンケート調査結果2013年」を公表しましたが、それによると、2008年から始まった医学部定員増（5年間で1416人増加）を機に、留年者、休学者、退学者が何れも増えており、多くの教員が医学生の実力低下を実感しているということです。増加人数からすると、5年間で医学部を約14校新設したのと同じと換算されます。これは以前から懸念されていたことですが、医学部の定員増で、今まで実力的に医学部に入れなかった学生にまで門戸を広げたため、現在の厳しい医学教育カリキュラムついて行けない学生が出て来ているということです。さらに、勉強だけではなく、社会性の乏しい学生、モチベーションの低い学生、精神的な問題を抱えた学生らが増えていることも問題として指摘されています。その結果、私立医科大学でこのような影響を一番受けやすいこととなります。従って、同会議はこれ以上の定員増や医学部の新設は、医学生の実力の一層の低下を招く恐れがあり、さらに教員の負担増に繋がることも懸念されると警鐘を鳴らしています。

最近の埼玉医大では、国家試験の成績が良好であり、それも一助となり入学試験の偏差値も上昇しています。今後の大学の課題としては、リサーチマインドをもった臨床医の育成と、医学部のグローバル化に合わせたカリキュラムの改革などが挙げられています。何れにしても、卒前・卒後の一貫した医学教育による質の高い医師養成システムが必要とされています。埼玉医科大学は丸木清浩理事長を中心として、色々な意味でクオリティーの高い大学ならびに大学病院を目指しています。母校の素晴らしい発展に期待し、同窓会としてできる限りのご協力をさせていただきたいと思えます。さらに、愛校心をもった多数の同窓生が母校から輩出されることを大いに期待したいと思えます。

最後に、同窓会員の皆様のご健勝ならびにご繁栄をお祈りし、巻頭言とさせていただきます。

お 知 ら せ

落合記念賞研究助成金の公募について

第 25 回落合記念賞研究助成金を公募します。

第 25 回落合記念賞研究助成金（若手研究者による、医学上将来性に富む研究に対して 1 件 100 万円を上限として毎年 3～4 件を対象に助成）を、下記の通り公募致しますのでご希望の方は所定の申請書をご提出下さい。

第 25 回落合記念賞研究助成金応募要項

1) 申請資格者

埼玉医科大学医学部同窓会会員（但し、教授・准教授・医学部学生は対象から除外する。）で、平成 26 年 4 月 1 日現在 40 歳未満の者とする。

2) 研究者

個人または複数であっても構わない。協同研究者が申請者の所属と異なっても構わない。

3) 研究期間

原則として 2 年以内に研究成果が得られる研究であること。

4) 申請に必要な書類（4～5 枚 1 組）

* 申請書—所定の書式用紙（3 枚，7）に該当する者は 4 枚 1 組] に記入のこと。

* 推薦書—所属学科長ないしは科長，またはそれらに代わる者を推薦者として，所定の書式用紙に記入のこと。

5) 申請期間

平成 26 年 1 月 15 日～3 月 28 日迄の間に、上記の申請書類一式を埼玉医科大学医学部同窓会事務局に提出のこと。

6) 助成金について

助成金は最高 100 万円までとする。

授与式は 6 月の同窓会総会で行う。

助成金の交付方法その他については，受賞者に総会終了後説明する。

なお，研究継続が不可能となった場合には，直ちに同窓会会長に報告するとともに，未使用額分の助成金は同窓会に返納しなければならない。

7) その他

申請の研究と同一とみなされる研究で，既に他の助成金の交付を受けている場合，あるいは申請中の場合には，申請書（4）にその内容を明記し提出のこと。なお同一の研究題目で既に他の助成を受けている場合は，応募をご遠慮下さい。

海外留学奨励助成金の公募について

医学部同窓会では、正会員の海外留学を支援するために、助成金の公募を行っています。募集要項及び助成金申請書をご希望の方は、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

* 申請資格

埼玉医科大学医学部同窓会正会員で、1 年以上継続して医学研究のため海外留学を予定し、応募前年度までの年会費を完納している者。

* 募集期間（毎年）

前期 2 月 1 日～7 月 31 日

後期 8 月 1 日～1 月 31 日